

2023年度 第2回九大本番レベル模試(教法経) 国語 採点基準

☆□・□の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

一 (評論) 採点基準 (合計 60点)

問1 11点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇2点

老いは それを通じて生のかなたの何ものかに向うさすらいをイメージさせ、

A③〇1点

人は齢とともに放浪と旅に身をまかせるといふふうにもいえるが、 〈A 4点〉

B〇3点

さすらいのは肉体的、心理的にも若者の方が多いため、 〈B 3点〉

X 〈対比〉 AとBに〇↓+1点

C〇2点

老人が安住の家を離れて漂泊流浪する姿は珍しいから、 〈C 2点〉

Y 〈総合〉 Cに〇↓+1点

(内容【9点】+構造【2点】=11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の「理由」を説明すべく、「老人」と「さすらい」の関係を表わすAと、「若者」と「さすらい」の関係を表わすBを比べる〈対比〓比べること〉の構造への評価である。〈ここではAの要素と、Bがあればこの構造の骨組みが成立している〉とみなして1点加点。

X 〈対比〓比べること〉 Aの要素+B 〇1点

☆Yは、A、BをCに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。〈ここではCがあればこの構造の骨組みが成立している〉とみなして1点加点。

Y 〈総合〓まとめること〉 C 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「老いはそれを通じて生のかなたの何ものかに向うさすらいをイメージさせ、人は齢とともに放浪と旅に身をまかせるといふふうにもいえるが、」〈4点〉

※ 傍線部の理由説明をするための、「老人」と「さすらい」の関係を表わす条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点

①「老いは」の要素。(1点)

✕「老い」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

②「それを通じて生のかなたの何ものかに向う」をイメージさせ、「の要素。(2点)

○「それを通して生の向こうの何かを目指す」をイメージさせ、「老いを通して生を超えた何かに向う歩み寄りのイメージを与え、」などでも可。

✖「老いを通して生の向こうの何かに向う」「さすらいのイメージ」のニュアンスの二成分が入っていないければ✖。

③「人は齢とともに放浪と旅に身をまかせるといふふうにもいえるが、」の要素。(1点)

○「人は年齢とともに行方知れぬさすらいに迷い出るといふふうにも言えるが、」「人は年経ると共に放浪と旅に迷い出るといふふうにもいえるが、」などでも可。

✖「齢とともに放浪 or 旅に身をまさせる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B「さすらいのは肉体的、心理的にも若者の方が多いため、」(3点)

※傍線部の理由説明をするための、「若者」と「さすらい」の関係を表わす条件。

○「さすらいのは肉体的かつ心理的にも若者の方がはるかに多いので、」「さすらいの実行では肉体と心理の条件において若者の数が老人のそれを圧倒しているため、」などでも可。

✖「さすらい」「肉体的かつ心理的に若者の方が多いため、」のニュアンスの二成分が入っていないければ✖。

C「老人が安住の家を離れて漂泊流浪する姿は珍しいから。」(2点)

※傍線部の理由説明をすべく、A、Bをまとめて結論づける条件。

○「老人が安住の地を離れて漂泊流浪する姿は多くはないから。」「老人が安らかな住処を離脱してさ迷い歩く姿は珍しいから。」などでも可。

✖「老人が安住の地を離れて漂泊流浪するのは珍しい」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問2 9点

(模範解答例)

A①○1点

みずばらしい、乞食、素性のしれぬ異邦人という 老いたさすらいひとと見えながら、(A 2点)

B○2点

身なりを整えてやれば、青年、若者である場合もあつて、(B 2点)

C①○2点

さすらいの辛苦が老いの外貌を甘受させていたという、老人と若者の内的な関わりを見せていること。

C②○1点

(C 3点)

(内容【7点】+構造【2点】=9点)

Y(総合) ↓ Cに○ ↓ +1点

X(逆説) ↓ AとBに○ ↓ +1点

【構造点】

☆Xは傍線部を説明すべく、A「老人の複合体」⇨「老いたさすらいひとの相」に、B「ひとつの異

質な複合」⇨「若者の相」が含まれているという、矛盾する二条件に引き裂いて行く(逆説⇨矛盾を含むこと)の構造への評価である。(ここでは、Aの要素と条件Bがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X(逆説) Aの要素+B ○1点

☆Yは、A、BをCに(総合)まとめることとする構造への評価である。(ここでは条件Cの要素があればこの構造の骨組みが成立している)とみなして1点加算。

Y(総合) Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「みすばらしい、乞食、素性の知れぬ異邦人という老いたさすらいびとと見えながら、」〈2点

※傍線部を説明すべく、「老人の複合体」≠「老いたさすらいびとの相」を説明していく条件。

①「みすばらしい、乞食、素性の知れぬ異邦人という」の要素。（1点）

○「悲惨な姿の、乞食であり、素性も分からぬ異人という」「薄汚れた、乞食のような異邦人」などでも可。

×「みすばらしい（㉓）乞食のような）、異邦人」のニュアンスの成分が入っていないと×。

②「老いたさすらいびとと見えながら、」の要素。（1点）

○「さすらい老人のようにみえながら、」「老人でありさすらいびとであるように見えるが、」などでも可。

×「老いたさすらいびと」のニュアンスの成分が入っていないと×。

B「身なりを整えてやれば、青年、若者である場合もあって、」〈2点

※傍線部を説明すべく、「ひとつの異質な複合」≠「若者の相」を説明していく、Aとは〈矛盾〉する条件。

○「風体を整えてやれば、青年、若者というしかない場合もあって、」「外見を整えてやれば、若者の顔が現れても不思議はなく、」などでも可。

×「身なりを整える」「青年〇〇若者」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C「さすらいの辛苦が老いの外貌を甘受させていたという、老人と若者の内的な関わりを見せていること。」「

〉3点

※ A、Bをまとめて結論づける条件。

①「さすらいの辛苦が老いの外貌を甘受させていたという、」の要素。（2点）

○「さすらいの苦勞が外見を老人そのものたらしめていたという」「さすらいの苦難が老いの相貌を帯びさせていたという」などでも可。

×「さすらいの辛苦」「老いの外貌の甘受」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「老人と若者の内的な関わりを見せていること。」「」の要素。（1点）

○「老人と若者が内的に関わっているのを証していること。」「老人と若者の内的なつながりを表わしていること。」「」などでも可。

×「老人と若者の内的な関わり」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

○条件Aに傷はなく、したがって2点。

○条件Bにも傷はなく、したがって2点。

○A、Bに傷がないので、X〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造の骨組みは成立しており〇1点。

×C①を欠き×。条件Cは1点。

○C②があるので、Y〈総合〓まとめること〉の構造の骨組みは成立しており〇1点。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

ドイツの教養小説では、老隠者と若者の交流がよく描かれるが、〈A 2点〉

B〇2点

若者は老隠者から学問・知識・技術を得るのみならず、〈B 2点〉

C〇2点

「若い」の相も目に灼きつけておくという、〈C 2点〉

X〈分析〉ABCのうち二種2つ以上の要素に〇↓+1点

D①〇1点

D②〇1点

精神的結合・対偶的複合関係を背後に持ち、それがさすらいの疲弊のはてに表れること。〈D 2点〉

Y〈総合〉Dに〇↓+1点

(内容【8点】+構造【2点】)＝10点

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、話題のAを、(not only～but also)の構文を構成する〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉とする構造への評価である。ここでは〈Aの要素、条件B、条件C〉内の二種二つ以上があればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、B、C〉内の二種二つ以上 〇1点

☆Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件Dの要素が一つ以上あればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点(の採点のポイント)は以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「ドイツの教養小説では、老隠者と若者の交流がよく描かれるが、」〈2点〉

※傍線部を説明するための話題の条件。

① 「ドイツの教養小説では、」の要素。(1点)

✕ 「ドイツの教養小説」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「老隠者と若者の交流がよく描かれるが、」の要素。

○ 「若者と向き合う老隠者の組み合わせがよく表現されるが、」「さすらい若者と老隠者のやりとりが登場することが多いのだが、」などでも可。

✕ 「老隠者と若者の交流」の成分が入っていないければ✕。

B 「若者は老隠者から学問・知識・技術を得るのみならず、」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く〈not only〉の条件。

○ 「老隠者から若者は学問・知識などを受けとるだけでなく、」「若者は老隠者より知識・技術などを習得するとともに」などでも可。

✕ 「老隠者↓若者」「学問(or知識 or 技術)などを得る」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 『若い』の相も目に灼きつけておくという、「<2点>

※傍線部を説明すべく、Aを説明して行く（but also）の条件。

○ 『若い』相貌も心に刻んでおくという「『若い』の姿も忘れずに記憶しておくという」などでも可。

✕ 『若い』の相も目に灼きつける」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。「若い」のみでは不可✕。

D 「精神的結合・対偶的複合関係を背後に持ち、それがさすらいの疲弊のはてに表れること。」<2点>

① 「精神的結合・対偶的複合関係を背後に持ち、」の要素。（1点）

○ 「精神的結合・対偶的複合関係を背景として、」「精神的なつながり・対偶的な絡み合う関係を背後に持って、」などでも可。

✕ 「精神的結合・対偶的複合関係」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「それがさすらいの疲弊のはてに表れること。」の要素。（1点）

○ 「それがさすらいの辛苦の末に表出すること。」「それらがさすらいの苦難の果てに露出すること。」などでも可。

✕ 「さすらいの疲弊の果ての表出」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問4 10点

（模範解答例）

A ○1点

さすらいでは、<A1点>

B ○2点

申し分ない肉体と精神をもった若者も、<B2点>

C ○1点

老いを直接経験しなければならず、さすらいの苦勞の累積が若者を老人にみせてしまつが、<C3点>

X <逆説> ABCのうち、2種以上に○↓+1点

D ○1点

D ○1点

そこでは若いこそが、若いと若さの対偶性、さらにそれを超えた相互性、共属性を導いていること。<D2点>

Y <総合> Dに○↓+1点

【内容】8点【+構造】2点【=10点】

【構造点】

☆ Xは、傍線部の説明をすべく、話題のAを<矛盾>しない二条件B、Cに<分析||分けること>して説明する構造への評価である。向きが反対である所に<矛盾>をみて<逆説||矛盾を含むこと>と解釈することもある。ここでは、条件A、B、Cの内
の二つがあればこの構造が暗黙裡に構想されているとみなして1点加算。

X <分析||分けること> <A、B、C>の内二つ以上 ○1点

・ Yは、B、CをDにまとめて結論づける<総合||まとめること>の構造への評価である。ここでは条件Dの要素が一つ以上あればこの構造が暗黙裡に構想されたとみなして1点加算。

Y <総合||まとめること> Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「さすらいでは」「へ1点」

※傍線部の『「老い』』にしか許されないような秘儀」を説明するため話題の条件。

× 「さすらい」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「申し分ない肉体と精神をもった若者も、」へ2点

※傍線部の『「老い』』にしか許されないような秘儀」を説明すべく、話題のAを説明して行く一方の条件。

○ 「申し分ない肉体と精神を授かって生まれてきた若者も、」「欠点の見当たらない肉体と精神を備えた若者も、」などでも可。「肉体」と「精神」両方が必要。

× 「申し分ない肉体と精神をもった若者」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「老いを直接経験しなければならず、さすらいの苦労の累積が若者を老人にみせてしまうが、」へ3点

※傍線部の『「老い』』にしか許されないような秘儀」を説明すべく、話題のAを説明して行く、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「老いを直接経験しなければならず、」の要素。(1点)

○ 「老いを直接に経験せざるをえず、」「老いを奪取しなければならず、」などでも可。

× 「老いの直接経験」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「さすらいの苦労の累積が若者を老人にみせてしまうが、」の要素。(2点)

○ 「さすらいの辛苦の蓄積が若者に老人の外観を与えてしまうが、」「さすらい困難の積み重ねが若者を老人であるかのように見せてしまうが、」などでも可

× 「さすらいの苦労の累積」「若者を老人にみせてしまう」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

D 「そこでは老いこそが老いと若さの対偶性、さらにそれを超えた相互性、共属性を導いていること。」「へ2点

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「そこでは老いこそが」の要素。(1点)

○ 「そこではまさに老いが」「そこでは他でもない老いが」などでも可。

× 「老い(こそ)が」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「老いと若さの対偶性、さらにそれを超えた相互性、共属性を導いていること。」「の要素。(1点)

○ 「老いと若さの対偶性、さらにそれを超越した相互性、共属性をもたらしていること。」「老いと若さの対偶性、そしてそれを超えた相互性、共属性を示唆していること。」「などでも可

× 「老いと若さの対偶性↓相互性⇄共属性」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇3点

老いた人間は 若い人間を呼び寄せようとしたり、若い頃のさすらいを回想し、その姿を後継者に物語ったり

A③〇1点

するが、それはもう一度『若さ』に近づくことであり、〈A5点〉

B①〇1点 B②〇2点

反対に「若さ」は 艱難を刻みつけられた「若い」の肌ざわりを引き受けて 〈B3点〉

C①〇1点 C②〇1点

交換、交替による 生の獲得を達成するという意味。〈C2点〉

X〈弁証法〉Cに〇↓+1点

(内容【10点】+構造【1点】=11点)

【構造点】

☆Xは、「老いた人間↓若い人間」の接近を表わす条件Aと、『若さ』↓『若い』の接近を表わす条件Bを、いわば〈衝突⇄矛盾〉を孕む二契機として、Cへの〈止揚〉を果たす〈弁証法⇄創造すること〉の構造への評価である。これが傍線部を説明する構造である。ここでは、Cの要素があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているものとみなして1点加点。

X〈弁証法⇄創造すること〉 Cの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「老いた人間は若い人間を呼び寄せようとしたり、若い頃のさすらいを回想し、その姿を後継者に物語ったりするが、それはもう一度『若さ』に近づくことであり、」〈3点〉

※傍線部を説明するための〈弁証法⇄創造すること〉の一方の契機となる条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(5点)内で、得点があれば要素点+1点

①「老いた人間は」の要素。(1点)

× 「老いた人間」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

②「若い人間を呼び寄せようとしたり、若い頃のさすらいを回想し、その姿を後継者に物語ったりするが、」の要素。(3点)

○「若い人間をあの手この手で誘ったり、かつての自分のさすらい回想し、その姿を招き寄せた後継者に聞かせたりするが、」「若者を招き寄せようとしたり、自分が若い肉体として経験したさすらいを想起し、その様態を若者に物語ったりするが、」などでも可。

×「若い人間を呼び寄せる」「若い頃のさすらいを回想」「後継者に物語る」のニュアンスの三成分全てが入っていないければ×。

③「それはもう一度『若さ』に近づくことであり、」の要素。(1点)

○「それはもう一度『若さ』に接近することであり、」「それは『若さ』に再接近することであり、」などでも可。

×「もう一度『若さ』に近づく」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「反対に『若さ』は艱難を刻みつけられた『古い』の肌ざわりを引き受けて、」〈2点〉

※傍線部を説明するための〈弁証法⇋創造すること〉の、Aとは〈衝突⇋矛盾〉する他方の契機となる条件。

① 「反対に『若さ』は」の要素。(1点)

- 「逆に『若さ』は」「反対に若い人は」などでも可。
- × 『若さ』のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「艱難を刻みつけられた『古い』の肌ざわりを引き受けて、」の要素。(2点)

- 「辛苦を刻印された『古い』の感触を引き受けて、」「苦難の塗り込められた『古い』の肌ざわりを身に帯びて、」などでも可。
- × 「艱難の刻印」「『古い』の肌ざわりを引き受ける」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「交換、交代による生の獲得を達成するという意味。」〈2点〉

※A、B二契機を〈止揚〉して到達した次元の条件。

① 「交換、交代による」の要素。(1点)

- 「交換、交代を通した」「交代による」などでも可。
- × 「交換or交代」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「生の獲得を達成するという意味。」の要素。(1点)

- 「生の獲得に向うという意味。」「生の獲得ないしは再獲得に至るという意味。」などでも可。
- × 「生の獲得の達成」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

問6 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○2点

『青い花』の中で、

主人公ハイインリヒが夢に見た青い花は、父が若い頃夢で見たのと同じものと判明し、

A③○1点

A④○2点

父の昔の夢の話聞いた後に、

若者ハイインリヒは父に祝福されて、それを探す旅に出るのだが、〈A 6点〉

B①○1点

B②○1点

それは夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる

生を獲得するために必要であった。〈B 2点〉

X 〈分析〉 AとBに○↓+1点 (7点)

(内容) 【8点】 +構造 【1点】 = 9点

【構造点】

☆Xは、傍線部の「共属性」が「何のために必要とされていたか」を説明すべく、Aの「共属性」とBの「目的(⇋何のために必要とされていたか)」の〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二条件に〈分析⇋分けること〉する構造への評価である。ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析⇋分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「青い花」の中で、主人公ハインリヒが夢に見た青い花は、父が若い頃夢で見たのと同じものと判明し、父の昔の夢の話を聞いた後に、若者ハインリヒは父に祝福されて、それを探す旅に出るのだが、「(4点)

※傍線部の「共属性」が「何のために必要とされていたか」を説明するための「共属性」の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(6点)内で、得点があれば要素点+1点。

① 「青い花」の中で、「」の要素。(1点)

× 「青い花」の成分が入っていないければ×。

② 「主人公ハインリヒが夢に見た青い花は、父が若い頃夢で見たのと同じものと判明し、」の要素。(2点)

○ 「主人公ハインリヒの夢に現れた青い花は、父が若い頃奇妙な夢で見たのと同じものらしいと判明し、」主人公ハインリヒの奇妙な夢の中に現れた青い花は父が若年時に夢で見たのと同じ花らしいと分かり、「などでも可。

× 「主人公ハインリヒが夢に見た青い花」「父が(若い頃)夢で見たのと同じものと判明」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「父の昔の夢の話を聞いた後に、「」の要素。(1点)

○ 「父から次々に昔の夢の話を詳しく聞いた後に、「父から昔の夢のことを詳しく語ってもらった後に、」などでも可。

× 「父の昔の夢の話を聞いた後」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「若者ハインリヒは父に祝福されて、それを探す旅に出るのだが、「」の要素。(2点)

○ 「若者ハインリヒは父に励まされて、『青い花』を尋ねあてる旅に出るのだが、「若者ハインリヒは父による祝福を受けて、それを求める旅に出発するのだが、」などでも可。

× 「若者ハインリヒは父に祝福されて」「それ(「青い花」)を探す旅に出る」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「それは夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる生を獲得するために必要であった。」(2点)

※ 傍線部の「共属性」が「何のために必要とされていたか」を説明するための、A(「共属性」)の「目的」の条件。

① 「それは夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる」の要素。(1点)

○ 「それは夢の中で『老い』のかたわらを通り過ぎてようやく到達できる」「それは夢の中で未知の翁とのかかわりを通して達することができる」などでも可。

× 「夢の中で翁の傍を通過して漸く達することができる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「生を獲得するために必要であった。」の要素。(1点)

○ 「生の獲得のために必要であった。」「生の再獲得のために不可欠であった。」などでも可。

× 「生を獲得するために必要」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「人間間の接近と距離の作用により、」〈2点〉

※Aについて、「相対化しなおされる」を説明する〈因果関係〉の〈因〉の条件。

① 「人間間の」の要素。

※ 「人間間」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「接近と距離の作用により、」の要素。

○ 「接近の要素と距離の要素の比率により、」「接近と距離の相関関係により、」などでも可。

※ 「接近と距離の作用」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

C 「ある程度の拘束とある程度の自由から合成されること。」〈3点〉

※Aについて、「相対化しなおされる」を説明する〈因果関係〉の〈果〉の条件。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。2要素であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点

① 「ある程度の拘束と」の要素。(1点)

※ 「ある程度の拘束」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

② 「ある程度の自由から」の要素。(1点)

※ 「ある程度の自由」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

③ 「合成されること。」の要素。(1点)

※ 「合成」のニュアンスの成分が入っていないければ✕。

問2 5点

(模範解答例)

A ○1点	B ○1点	C ○1点	D ○1点	E ○1点
事物の交換において	事物と	人格が	未分離である	状態。
				(5点)

【構造点】

※この短字数のこの問題では適用しない。

◎ 採点のポイント

A 「事物の交換において」の要素。(1点)

※傍線部を説明するための「場」の要素、あるいは前提条件。

○ 「物の交換で」「経済で」などでも可。

※ 「交換」のニュアンスの成分がなければ✕。

B 「事物と」の要素。(1点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明する一方の要素。

○ 「物と」「客観的側面と」などでも可。

※ 「事物」のニュアンスの成分がなければ✕。

C 「人格が」の要素。(1点)

※傍線部を説明すべく、Aを説明する他方の要素。

○ 「全人格が」「個人的側面が」などでも可。

× 「人格」のニュアンスの成分がなければ×。

D 「未分離である」の要素。(1点)

※B、Cをまとめて結論づける要素。

○ 「未分化である」「融合している」などでも可。

× 「未分離」のニュアンスの成分がなければ×。

E 「状態」の要素。(1点)

※B、Cをまとめて結論づける要素の続き。

× 「状態」の成分がなければ×。

問3 1点✖3=3点

(解答) ① (ア) ② (オ) ③ (カ)

問4 4点✖2=8点

C 4点

(解答例)

A○2点

B○2点

一定の労働生産物を 基準とすること。 (4点)

◎採点のポイント

※A、Bの各要素に各2点を配布して要素があるかどうかで採点する。記述問題の採点基準は、この問題では適用しない。

※【構造点】もこの問題では適用しない。

A 「一定の労働生産物を」の要素。(2点)

※傍線部の「事実性」を分かりやすく言い換えた要素。

○ 「一定の労働時間と体力ではなく、労働生産物を」「なにをどれだけ納めるのかを」などでも可。

× 「(一定の)労働生産物」のニュアンスの成分がなければ×。

B 「基準とすること」の要素。(1点)

※傍線部の「原理」を分かりやすく言い換えた要素。

○ 「根拠とすること。」「基準とすること。」などでも可。

× 「基準」のニュアンスの成分がなければ×。

D 4点

(解答例)

A○2点

B○2点

個人的な要素が「掃されていること」(4点)

◎採点のポイント

※A、Bの各要素に各2点を配布して要素があるかどうかで採点する。記述問題の採点基準は、この問題では適用しない。(4点)

※【構造点】もこの問題では適用しない。

A「個人的な要素が」の要素。(2点)

※傍線部の「非人格化」の中の「人格」を分かりやすく言い換えた要素。

○「個人に関わる要素が」「個人的な労働に関わる要素が」などでも可。

×「個人的な要素」のニュアンスの成分がなければ×。

B「一掃されていること」の要素。(2点)

※「全否定」の要素。

○「全否定されていること」「一切入っていないこと」などでも可。

×「一掃(≠全否定)」のニュアンスの成分がなければ×。

問5 11点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

人間は「交換する動物である」が、交換は掠奪や闘争とは異なる。(A 2点)

B①○1点

B②○1点

後者は「主観的な衝動」による得失の結果するが。(B 2点)

C①○1点

C②○1点

C③○1点

交換は相手との釣り合いを顧慮し、相互作用を見る。客観的な視点を育み。(C 3点)

X〈分析〉ABCの2種2つ以上に○↓+1点

D①○1点

D②○1点

この客観的能力が、主観的衝動からの解放を導くから。(D 2点)

Y〈否定を含む総合〉Dに○↓+1点

(内容【9点】+構造【2点】=11点)

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由説明をすべく、話題のAについて、Aの「掠奪や闘争」とBの「交換」に〈分析〓分けること〉——A、Bの〈対比〓比べること〉と考えてもよい——して説明してゆく構造への評価である。(ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の内の二種以上二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〓分けること〉 〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の二種以上二つ以上 ○1点

☆Yは、Bを否定しCを肯定してDに至る〈否定を含む総合〉——〈not-but〉の構文が〈総合〓まとめること〉の構造と合体している——の構造への評価である。(ここでは、Dの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈否定を含む総合〓否定の要素を含んでまとめること〉 Dの要素 ○1点

◎採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「人間は『交換する動物である』が、交換は掠奪や闘争とは異なる。」(2点)

※傍線部の理由説明をするための話題の条件。

① 「人間は『交換する動物である』が」の要素。(1点)

○ 「人間は交換を行う動物のだが、」「人間は『交換する動物』と定義されるが、」などでも可。

✖ 「人間」「交換する」動物』のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「交換は掠奪や闘争とは異なる。」の要素。(1点)

○ 「交換は掠奪や闘争で何かを奪い取ることは違う。」「交換は掠奪や闘争とは次元を異にする。」などでも可。

✖ 「交換≠掠奪や闘争」の成分が入っていないければ✖。

B 「後者は『主観的な衝動』による得失を結果するが、」(2点)

※傍線部の理由説明をすべく、Aを説明する一方の内容である「掠奪や闘争」の条件。

① 「後者(≠掠奪や闘争)は『主観的な衝動』による」の要素。(1点)

○ 「掠奪や闘争は『主観的な衝動』に従う」「後者は主観的衝動に則った」などでも可。

✖ 「掠奪や闘争は『主観的な衝動』による」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「得失を結果するが、」の要素。(1点)

○ 「利害を結果するが、」「損得を生むが、」などでも可。

✖ 「得失を結果」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「交換は相手との釣り合いを顧慮し、相互作用を見る客観的な視点を育み、」(3点)

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明する他方の内容である「交換」の条件。

以下の3要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。要素以上であれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

① 「交換は相手との釣り合いを顧慮し、」の要素。(1点)

○ 「交換は相手とのバランスを熟慮し、」「交換は相手との均衡に配慮し、」

✖ 「交換は相手との釣り合いを顧慮」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「相互作用を見る」の要素。(1点)

○ 「相互の働きかけを見る」「相互作用を見る」などでも可。

✖ 「相互作用を見る」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③ 「客観的な視点を育み、」の要素。(1点)

○ 「客観的な見方を育て、」「客観視する能力を育成し、」などでも可。

✖ 「客観的な視点を育む」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。単に「客観的」のみは不可✖。

D 「この客観的能力が、主観的衝動からの解放を導くから。」(2点)

※Bを否定しCを肯定してまとめ、結論づける条件。

- ①「この客観的能力が、」の要素。(1点)
- 「こうした客観的な観察能力が、」「この客観視の能力が、」などでも可。
- ✖「客観的能力」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

- ②「主観的衝動からの解放を導くから。」の要素。(1点)
- 「主観的衝動から解放させるから。」「主観的な衝動から離脱させるから。」などでも可。
- ✖「主観的衝動からの解放」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問6 12点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

A④○

「人格」とは

「これもあれもある」諸属性の

「相対的な統一」として

代替不可能なものだが、(A 4点)

B①○1点

B②○1点

B③○1点

貨幣経済では

人は供給者、資金提供者、労働者という

一面でのみ関係に入る。(B 3点)

C①○1点

C②○1点

その結果(分業)によって依存の数を増大させるが、

人間を関係の外部に放置するため、

C③○1点

依存から分化した人格と自由が表れること。(C 3点)

Y (総合) Cに○↓+1点

(内容【10点】+構造【2点】) = 12点

【構造点】

☆Xは、傍線部を、Aの「人格」と、Bの「貨幣経済における依存関係」の「矛盾」する二条件に引き裂いて説明してゆく(逆説|| 矛盾を含むこと)の構造への評価である。ここでは、条件A、条件Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているときみなして1点加算。

X (逆説|| 矛盾を含むこと) Aの要素+Bの要素 ○1点

☆Yは、A、BをCに(総合|| まとめること)する構造への評価である。ここではCの要素一つ以上あればこの構造が暗黙裡に構想されているときみなして1点加算。

Y (総合|| まとめること) Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y(各1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A『人格』とは『これもあれもある』諸属性の『相対的な統一』として代替不可能なものだが、(4点)

※傍線部を説明するための一方の条件。

以下の4要素に分けて採点。満点(4点)内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素あれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていないければ0点。

①『人格』とは」の要素。(1点)

✖ 『人格』の成分が入っていないければ✖。

②『これもあれもある』諸属性の」の要素。(1点)

○ 「これでもありあれでもあるという諸属性の」「あれこれある諸属性の」などでも可。
✖ 「『これもあれもある』諸属性」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③『相対的な統一』として」の要素。(1点)

○ 「相対的に統一されたものとして」「さまざまな諸規定を統一化したものとして」などでも可。
✖ 『相対的な統一』のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

④「代替不可能なものだが、」の要素。(1点)

○ 「取り換え不可能なものだが、」「代わりがないものであるが、」などでも可。
✖ 「代替不可能なもの」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「貨幣経済では人は供給者、資金提供者、労働者という一面でのみ関係に入る。」(3点)

※傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

①「貨幣経済では」の要素。(1点)

✖ 「貨幣経済」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「人は供給者、資金提供者、労働者という」の要素。(1点)

○ 「人間は、供給する者、資金を提供する者といった」「資本家、供給者、労働者などという」などでも可。
✖ 「供給者、資金提供者、労働者といった」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「二面でのみ関係に入る。」の要素。(1点)

○ 「一面的な関係に入る」「二面でのみ関わる」などでも可。
✖ 「二面でのみ関係」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「その結果分業によって依存の数を増大させるが、人間を関係の外部に放置するため、依存から分化した人格と自由が表れること。」(3点)

※A、Bをまとめて結論づける条件。

①「その結果分業によって依存の数を増大させるが、」の要素。(1点)

○ 「結果的に分業的な依存を増大させるが」「その結果分業への依存の程度は深まるが、」などでも可。
✖ 「分業による依存の数の増大」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

②「人間を関係の外部に放置するため、」の要素。(1点)

○ 「個人的・人格的なものは関係外に放置されるため、」「『人格』を人間の機能の背後に消滅させるため、」などでも可。
✖ 「人間を関係の外部に放置する」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

③「依存から分化した人格と自由が表れること。」の要素。(1点)

○ 「逆に緊密な依存から離脱した人格と自由が出現すること。」「依存から分かれ出た自由な人格が登場すること。」などでも可。
✖ 「依存から分化した人格と自由が表れる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

土地や工場などの土地所有者は

所有物によって活動や性質に影響を被り、

完全に自由とはいえない。〈A3点〉

B①〇1点

B②〇1点

B③〇1点

だが貨幣所有は、貨幣が「質」から自由な「量」であることから、

土地などの客体からの束縛を免れて

いるため、〈B3点〉

X〈逆説〉ABの両方の要素に〇→11点

C①〇1点

C②〇1点

C③〇1点

C④〇1点

所有者はいつでも場所から逃げ、

集団から自立する、

自由を獲得できると論じている。〈C4点〉

Y〈否定を含む総合〉Cに〇→11点 (12点)

〈内容【10点】+構造【2点】=12点〉

【構造点】

☆Xは傍線部に関して、A「土地所有者」の「自由」と、B「貨幣所有」の「自由」という〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明していく〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件Aの要素と条件Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈逆説=矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 〇1点

☆Yは、Aを否定しBを肯定してCに至る〈否定を含む総合〉——(notP→butQ)の構文が〈総合=まとめること〉の構造と合体している——の構造への評価である。ここでは、Cの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈否定〉 Cの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合のみ加算する。

A 「土地や工場などの土地所有者は所有物によって活動や性質に影響を被り、完全に自由とはいえない。」〈3点〉

※ 傍線部に関して、ジンをメルがA「土地所有者」の「自由」について述べた条件。

以下の三要素に分けて採点。満点(3点)内で、得点があれば要素点+1点。2要素以上があれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていなければ0点。

① 「土地や工場などの土地所有者は」の要素。(1点)

○ 「土地や画廊などの土地所有者は」「工場や馬小屋などの土地所有者は」などでも可。

✕ 「〈土地 or 工場 or 画廊 or 競馬小屋〉などの土地所有者」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

② 「所有物によって活動や性質に影響を被り、」の要素。(1点)

○ 「所有物によって行動や精神に影響を受け、」「所有物によって心身に制約を受け、」などでも可。

✕ 「所有物による心身の制約」のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

③ 「完全に自由とはいえない。」の要素。(1点)

○ 「完全な自由を手していない。」「不自由を何処かで感じている。」などでも可。

✕ 「完全な自由」の否定のニュアンスの成分が入っていなければ✕。

B 「だが貨幣所有は、貨幣が『質』から自由な『量』であることから、土地などの客体からの束縛を免れているため、」〈3点〉

※ 傍線部に関して、ジンメルが「貨幣所有」の「自由」について述べた条件。

以下の**三要素に分けて採点。満点（3点）内で、得点があれば要素点+1点。2要素以上があれば3点、1要素であれば2点、要素が入っていない場合は0点。**

① 「だが貨幣所有は、」の要素。（1点）

○ 「これに対し、貨幣所有は、」しかし貨幣所有は、」などでも可。

✖ 「貨幣所有」のニュアンスを含む成分が入っていない場合は✖。

② 「貨幣が『質』から自由な『量』であることから、」の要素。（1点）

○ 「貨幣が『質』から自由な純粹な『量』であるため、」貨幣が『質』による拘束を受けない自由な『量』であることから、」などでも可。

✖ 「貨幣」「質」から自由な『量』のニュアンスの成分が入っていない場合は✖。

③ 「土地などの客体からの束縛を免れているため、」の要素。（1点）

○ 「不動産などの客体からの拘束から解放されているため、」土地などの客体からの制約に縛られていないので、」などでも可。

✖ 「土地などの客体からの束縛を免れている」のニュアンスの成分が入っていない場合は✖。

C 「所有者はいつでも場所から逃げ、集団から自立する、自由を獲得できると論じている。」〈4点〉

※ Aを否定しBを肯定してまとめた、ジンメルの結論の条件。

以下の**四要素に分けて採点。満点（4点）内で、得点があれば要素点+1点。3要素以上があれば4点、2要素で3点、1要素であれば2点、要素が入っていない場合は0点。**

① 「所有者は」の要素。

✖ 「（貨幣）所有者」の成分が入っていない場合は✖。

② 「いつでも場所から逃げ、」の要素。（1点）

○ 「地理的束縛を受けず、」祖国などの拘束を逃れ、」などでも可。

✖ 「場所から逃げる」のニュアンスの成分が入っていない場合は✖。

③ 「集団から自立する、」の要素。（1点）

○ 「集団から独立する、」集団を離脱する、」などでも可。

✖ 「集団からの自立」のニュアンスの成分が入っていない場合は✖。

④ 「自由を獲得できると論じている。」の要素。（1点）

○ 「自由を手にすることができると論じている。」自由を達成することができると論じている。」などでも可。

✖ 「自由の獲得を論じている」のニュアンスの成分が入っていない場合は✖。「論じている」のみは不可✖。

三 (古文) 採点基準 (40点)

問1 各3点✖4＝12点

「傍線部①」「やは」「てふ意にて」の現代語訳。

A○1点 B○2点

(解答例) 「やは」という 反語の意味であって、【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「やは」という (1点)

※ 「やは」「てふ」の解釈

○ 「てふ」が「〜という」の解釈になっていること。

B 「反語の意味であって」「 (2点)

※ 「てふ意にて」の解釈。

○ 「意」が「反語」であることが明確なこと。「意味」のみは✖不可。

○ 「にて」が「〜で (あって)」と解釈してあること。完答。

「傍線部②」「身ながらの意にて」の現代語訳。

A○2点 B○1点

(解答例) 自分の身のままであるのに という意味であって 【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「自分の身のままであるのに」 (2点)

※ 「身ながらの」の解釈

○ 「身ながら」が「自分の身が昔と同じであるのに」のように逆接で訳してあること。

B 「と」という意味であって「 (1点)

※ 「意にて」の解釈

○ 「の意にて」が「〜の意味であって」と断定の解釈になっていること。

〔傍線部③〕「これにてよく聞こえたるものをや」の現代語訳。

A〇1点

B〇2点

(解答例) 深養父の句(と)照らし合わせる(と)によつて 「月やあらぬ」の歌がよく理解できるのではないか。【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「深養父の句(と)照らし合わせる(と)によつて」(1点)

※「これにて」の解釈

○「これ」が「深養父の歌」であることが明示されていること。

B 「月やあらぬ」の歌がよく理解できるのではないか」(2点)

※「よく聞こえたるものをや」の解釈。

○「月やあらぬ」の歌(在原業平の歌)の意味が理解できる、という内容になっていること。

〔傍線部④〕「在り所は聞きけれど、えものも言わで」の現代語訳。

A〇2点

B〇1点

(解答例) その女の居場所は知っていたが、 手紙をやる(と)がびぎなくて。【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「その女の居場所は知っていたが」(2点)

※「手紙をやる(と)がびぎなくて」の解釈

○「在り所」が「女」の居場所(居所)と訳してあること。「女」は「高子」でもよい。

B 「手紙をやる(と)がびぎなくて」(1点)

※「えものも言わで」の解釈。

○不可能の解釈になっていること。「言う(と)がびぎなくて」も可とする。

問2 4点

A〇2点

B〇1点

(解答) マ行四段活用動詞「よむ」已然形 十完了の助動詞「り」連体形

C〇1点

十断定の助動詞「なり」終止形

※ABC内は完答のみ○。

問3 7点

※ 「昔のやうにもあらぬことよ」とは何がどのようなようであると述べているのかを本文に即して説明する。

A ○3点

B ○2点

C ○2点

(解答例) 今の自分の境遇が愛する人と逢っていた時とは まったく異なっている と述べている。【7点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「今の自分の境遇が愛する人と逢っていた時とは」(3点)

※ 「何が」の説明。

○ 歌を詠む現在の自分の境遇と愛する女と交際していた以前の境遇との比較になっていること。

B 「まったく異なっている」(2点)

※ 「どのようなようである」の説明。

○ 状況が全く違う、という説明

C 「と述べている」(2点)

※ 文末処理。

※ A・Bに得点が無い場合、これだけでは得点できない。

○ 「ということ」などでも可。

問4 5点

※ 「かかるをいへるなるべし」について本文の内容に即して説明する。

A ○1点

B ○3点

(解答例) 在原業平の歌は意趣が捉えにくく、他の箇所と照らし合わせたり、言葉を補ったりすることが
C ○1点

ようやく理解できるということ。

【4点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「在原業平の歌は意趣が捉えにくく」(1点)

※ 業平の歌は内容が把握しづらい、という内容。

○ 「言葉足らずになって(いてわかりにくい)」という表現でも可とする。

B 「他の箇所と照らし合わせたり、言葉を補ったりすること」(3点)

※ 他の箇所と対比＋言葉の補足。

C 「ようやく理解できるといふこと。」(1点)

※文末処理。

※ A Bに得点が無い場合、ここだけでは得点できない。

問5 4点

(解答) (2) ↓ (3) ↓ (4) ↓ (5) ↓ (1) ※完答のみ

問6 8点

※ 「月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして」を本文の内容に即して現代語訳する。

A ○4点

(解答例)

月は愛する人と交際していた以前と違う月ではないだろうか、いや同じ月であろう。春も同じ春

B ○4点

ではないのだろうか、いや同じ春であろう。この我が身のみが元の身のみまで、愛する人と逢って

いた以前の境遇とはまったく異なっていてしまっているのだ。【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「月は愛する人と交際していた以前と違う月ではないだろうか、いや同じ月であろう。春も同じ春ではないのだろうか、いや同じ春であろう。」(4点)

※ 「月やあらぬ春や昔の春ならぬ」の現代語訳。

○ 解答例のように「くだらうか、いや」とするか、「月」も「春」も何もかわりはしない、のように**両語表現がしっかりと解釈されていること**。

△内容的に間違っていないが、反語表現として解釈されていると取れない場合は、▲2点減点で△2点。

B 「この我が身のみが元の身のみまで、愛する人と逢っていた以前の境遇とはまったく異なっていてしまっているのだ。」(4点)

※ 「わが身ひとつはもとの身にして」の現代語訳。

○ 「自分自身だけが愛する人と交際していた時のように見えるが、当時とはまったく境遇が異なっている」という解釈がなされていること。

※ 単に「私は変わってしまった」のように、何が変わったのかがわからない答案は不可※。

〔四〕(漢文) 採点基準(合計＝40点)

問1 各2点★5＝10点

(解答) ㉔ もうす／まうす

㉕ ここにおいて

㉖ はなはだしいかな／はなはだしきかな

㉗ あえて／あへて

㉘ いわんや／いはんや

○現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらでも可。

○㉔は「…しいかな」「…しきかな」、どちらでも可。

問2 各3点★2＝6点

(解答)

① 旧友

○古くからつきあいのある友人「旧友」「親友」「昔なじみ」「古なじみ」などでも○。

③ 機会

○きっかけ「よいおり」「折り」「チャンス」「適切なとき」「時機」などでも○。

問3 5点

A○2点

B○3点

(解答) いやしくもろんせつ(する)「こと」(ある)ある をがへんぜず

☆各加点要素の加点の条件

※A↓Bの順序になっていない場合は全体として加点なし0点。

○句点「。」の有無は不問。

A 「いやしくもろんせつ(する)「と」(ある)2点

○「苟」は「いやしくも」「かりそめに」も「どちらでも可」。

○「論説」は「ろんせつ」「ろんせつする」「ろんせつする「こと」「いづれも可」。

B 「をがへんぜず」(3点)

○「をがへんぜず」「をがえんぜず」どちらも可。

問4 6点

※李秀才の言葉の最後の二文字を抜き出す。

(解答) 於此 【6点】

※これのみ正解。例外なし

問5 5点+7点=12点

(1) 5点

※「将復有深於是者」に返り点を付ける。

(解答) 将下復有深二於是者上 【5点】

(2) 7点

※「将復有深於是者」をわかりやすく解釈する。

(模範解答) 将来、さらにこれよりも奥深いものを生み出せる A後半〇
でしよう。 【7点】

☆各加点要素の加点の条件

※A↓Bの順序になっていない場合は全体として加点なし。
○読点「、」句点「。」の有無は不問

A 「将来、…でしよう」(3点)
※「将(将にくんとす)」の現代語訳
○「将(まさに…んとす)」を「これから…だろう」「将来…だろう」などと解釈していること。
※「今にも…しそうだ」「…するところだ」「…しようとしている」などは不可※。

B 「さらにこれよりも奥深いものを生み出せる」(4点)

※「将(将にくんとす)」の現代語訳
○「この文章よりも深いものが生まれる」「この作品よりもっとよいものを作る」などと解釈できていること。
○比較の句形「…よりも」を踏まえて訳していること。
○「是」は「これ」のままでも可。

問6 1点✖3＝3点

(1) 1点✖3＝3点

(ア) (ウ) (コ)

☆各加点要素の加点の条件

○正解一つにつき1点を与える。

▲不正解一つにつき1点減点する。

※ () の有無は問わない。